

いい歯の日通信



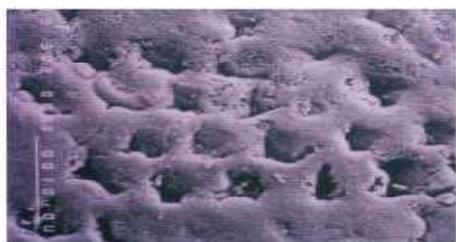
2020, 11, 18 御所市立大正中学校

永久歯をむし歯から守りましょう

～‘生えたての歯’は、むし歯になりやすい！！～

子どもの歯は、6歳頃から12歳頃にかけて「乳歯」から「永久歯」へと生えかわっていきます。永久歯は、まず第1大臼歯(6歳臼歯)から生え始め、次に前歯から奥歯に向かって順番に生えかわっていきます。12歳前後には6歳臼歯の奥に、第2大臼歯(12歳臼歯)が生えてきて、最終的に永久歯が生えそろうのは13～14歳頃です。もともと、生える順番や時期には個人差があるので、これはあくまでも目安です。随分後になって生えてくる第3大臼歯(親知らず)は、生える人もいれば生えない人もいるので、12歳臼歯が生えると永久歯が生えそろうたといえます。

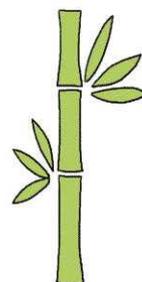
生えたばかりの永久歯は、歯の表面を覆っているエナメル質の石灰化が不十分で、歯の表面が粗く、酸に対する抵抗力が弱いため、生えてから2～3年はむし歯になりやすい状態が続きます。歯の表面に唾液中のカルシウムやリンがくっつき、だんだん強く堅くなりむし歯になりにくくなっていきます。生えたてのタケノコは柔らかいですが、竹になるとかたくなるのと似ていますね。永久歯に生えかわる小学生・中学生の今が一番大切な時です。歯みがきやおやつに気をつけて、永久歯をむし歯から守りましょう。



生えた直後の歯の表面



生えてから1年6ヶ月経過した歯の表面



むし歯になりやすい‘6歳臼歯・12歳臼歯’

永久歯の中で一番むし歯になりやすいのが、6歳臼歯です。そして、12歳臼歯もまたむし歯になりやすい歯です。

これらの歯は、なぜ、むし歯になりやすいのかといえば、生え始めてからしばらくは歯の表面が弱だけでなく、次の3つのこともむし歯になりやすい要因となっています。



- ①一番奥に生えてくるので歯ブラシが届きにくくみがきにくい。
- ②生え始めは歯ぐきが歯にかぶさっているので、歯と歯ぐきのすき間に食べかすがたまる。
- ③かみ合わせ面の溝が深く複雑で側面にも溝がある。などです。



背の低い間は、歯ブラシを横から入れると、うまくみがけます。6歳臼歯が生えてきたら、むし歯になっていないか確認し、おうちの方で仕上げみがきをしてあげてください。